

ごとに微調整している。

山本さんは「堂々と発表して最優秀賞を取りたい。他

の地区の取り組みを聞くのも楽しみ」と話している。

枝豆、サヤインゲン増産に貢献 芽室・生産組合 設立10年 「良質、これからも」

2020年2月15日

芽室町内の枝豆、サヤインゲンの生産者でつくる「芽室町枝豆生産組合」（事務局・ＪＡめむろ農産部青果課）が、設立して10年目の節目を迎えた。組合として適期の収穫や品質の統一化に取り組み、2011年４月の発足時と比較すると組合員の19年産枝豆は65％増、サヤインゲンは137％増の収穫量となっており、順調に事業が拡大している。

枝豆、サヤインゲンは7月下旬から9月中旬までが収穫シーズンで、芽室町の基幹作物である小麦の前作になる。収穫残さを畑にすき込むことで栄養分になることから輪作体系として重要で、冷凍加工品の需要の高まりもあって発足した。スタート時に67戸だった組合員は、現在では210戸に増加した。

組合としては残留農薬の検査や技術指導、適期に収穫するための播種（はしゅ）日の選定などルールづくりを実施。使用できる農薬を定めるなど品質を一定に保ち、販売先も広げてきた。

収穫された枝豆、サヤインゲンは道内外で販売される。収穫機械の導入のほか、昨年には同ＪＡの子会社で加工を担うジェイエイめむろフーズの工場が新設。処理量が増えた影響もあり、19年の枝豆作付面積は480ヘクタール、実際に製品になった収穫量は2112.2トン（11年比65.2％増）に。サヤインゲンの作付面積は150.2ヘクタール、製品収穫量は1234.6トン（137.1％増）まで増えた。

面積や収穫量は、今後も増加させたい考えで、品質などを考慮した上で、どの程度増やせるかを検討している。同組合の西田昭憲組合長は「おいしい枝豆、サヤインゲンを届けることが第一。ブランドを確立するためにも良質なものをこれからも生産していきたい」と話している。



生産が順調に増えているサヤインゲンの収穫風景
（昨年8月、芽室町で）